

会社を安易に辞めないこと！



進路室にいると昨年卒業した生徒が「会社を辞めた」という話が時々伝わってきます。しかも入社後まもなくでやめたという生徒が少なくありません。しかし、今の時代は安易に会社を辞めても次の職を探すのがかなり大変です。そして何よりやめた本人だけではなく、後輩にも迷惑がかかることを承知して欲しいものです。今年度も、昨年ある企業に入った生徒が、入社後すぐにやめてしまい、その会社からは今年本校に求人を出してもらえませんでした。昨年までは簡単に就職が決まったからその有難味が分からないかもしれませんが、今年の君達は苦労した分、少しでも入社できた喜びをかみしめ、安易に会社を辞めないで欲しいものです。

皆さんは、就職先を決める際に選択肢が少なかったことも確かです。それだけに、もっと良い会社があるのではと思うこともあるかもしれませんが、とかく隣の芝生は良く見えるものですが、しかしだからといって今すぐに会社を辞めるような時代ではありません。ある程度景気が落ち着くまでは、現在の仕事を頑張ってみるべきでしょう。あまりこころ職を代わるような者は次の会社でも採ってくれません。

「三日・三月・三年」という言葉があります。新しい場に入りうまくいかず『やめたい』と思うのが三日目、三月目、三年目という喩えです。逆に考えればこの時期を上手く過ごせば何とか乗り切れるということでしょう。皆さんがこれから入る学校や会社では、今皆さんが考えている以上にとまどうことが多いと思います。しかしそうしたものにへこたれず、「石の上にも三年」間は頑張ってみて欲しいものです。現実から逃げたら君の負けです。困ったことがあれば辞める前に周りの人等に相談することです。じっくりと粘り自分の頭でよく考えて切り抜けてください。多くの人は皆同じような思いを通り抜けて生きているのです。



親への感謝の気持ちを忘れないように！

「親」という字は「木」が「立つ」を「見る」という三つの漢字から成り立っています。小さな苗木から独り立ちをするまでずっと世話をし見守り続けるということでしょう。立っている木を漠然と見ている分けではありません。皆さんが産まれたときは、親はどんなにその誕生を喜び、将来に期待をしたことでしょう。また小さいときに病気になった際は、皆さんのことを心配し看病し続けていたことでしょう。皆さんが成長してきた18年間親は皆さんの真っ直ぐな成長を願いじっと見守り続けてきました。

しかしそんな親の思いを知ってか知らずか、いつしか自分一人で大きくなった様な気持ちとなり、親の存在が煙たく感じている人もいるかもしれません。顔を合わせるたびに親の小言を聞くということもあるかもしれません。しかし、我が子がかわいくない親はありません。いつまでも親にとっては子供は心配になるものです。だから注意もするのです。

まだまだ皆さんは親に頼っていかなくてはいけないと思います。特に進学する人は親への負担が一層大きくなります。しかし、親はいつまでも元気であるわけではありません。親への感謝の気持ちを忘れないで欲しいものです。就職する人はせめて最初の給料で親への感謝の気持ちを表すくらい心配りが欲しいものです。また親にとって嬉しいことは、何よりも子供がきちんとした仕事に就き頑張っている姿を見ることでしょう。